



国文学研究資料館年報

National Institute of Japanese Literature

平成21年度(2009)

国文学研究資料館年報

National Institute of Japanese Literature

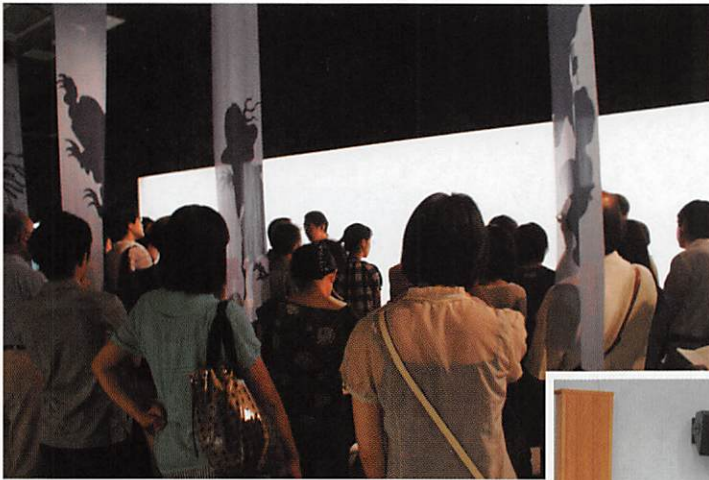
平成21年度 (2009)



口絵 1 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館（外観）



口絵 2 広大な敷地に立つ国文学研究資料館



口絵 3 人間文化研究機構 連携展示
「百鬼夜行の世界」



口絵 4 連続講演「表氏八十以後能楽談儀一能楽研究
百年史の争点を洗うー」



口絵 5 サテライト講座
「平安文学への招待」



口絵 6 子ども見学デー

はじめに

人間文化研究機構国文学研究資料館（National Institute of Japanese Literature）は、研究者コミュニティからの強い要請と、日本学術会議の勧告のもとに、昭和 47 年（1972）5 月に大学共同利用機関として文部省直轄の研究機関として設立されました。その後、法人化という新しい組織編成のもとに人間文化研究機構を構成する一機関ともなりましたが、今日まで 30 数年を経、着実にその任務を遂行し、さまざまな成果を挙げています。

また、昭和 23 年に設立された旧国立史料館とも組織を同じくし、各種の文書史料の活用を基盤とした新たな研究領域の構築を目指しています。

平成 15 年の大学共同利用機関法人化に際し、国文学研究資料館は、それまでの組織を基盤としながら、4 つの研究系、すなわち、（1）文学資源研究系、（2）文学形成研究系、（3）複合領域研究系、（4）アーカイブズ研究系に編成し、第一期の中期目標・中期計画に則った研究及び事業を精力的に推進してきました。

しかし法人化一期 6 年を経て、人間文化研究機構の一機関としての事業、研究、教育活動の一段の活性化に直面し、組織の柔軟な運営を目指すため、平成 22 年度 4 月、第二期中期目標・中期計画の開始と同時に、4 研究系体制を統合して一研究部に改組しました。これにより、館全体としてより一体的に日本文学、歴史記録資料の総合的な課題への取り組みに努めます。なおこの改組に併せて、従来一人であった副館長を二人体制としたことをご報告します。

当館の使命として設立当初から存する、国内外の国文学資料の調査、マイクロフィルムや古典籍原本の収集は着実に継続しており、第二期においてもそれらを積極的に進めて、その成果を研究者、一般市民へ提供する方針は揺るぎません。

また、総合研究大学院大学（大学院博士後期課程）における教育にも館を挙げて取り組んでおり、研究者養成の面でも、人文学研究の発展に寄与したいと願っているところです。

国文学研究資料館が、平成 19 年 2 月に品川戸越の創設の地から立川市の新しい建物に全面的な移転し、同年 4 月から新天地での事業を再開したことは、すでにご報告したところです。充実した閲覧室、機能強化された展示室の活用により、人文学の知の拠点として、地域との協力、国内外との共同研究に邁進する所存です。今後とも、多くの方々のご協力と、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

平成 22 年 12 月

人間文化研究機構
国文学研究資料館長

今 西 祐一郎

国文学研究資料館年報

平成 21 年度 (2009)

目 次

はじめに

I 基幹研究	7
II 研究プロジェクト	12
1. 文学資源研究系	12
2. 文学形成研究系	17
3. 複合領域研究系	21
4. アーカイブズ研究系	24
5. 公募共同研究	28
III 情報事業センター	31
1. 調査収集事業部	31
2. 電子情報事業部	33
3. 情報資料サービス事業部	40
4. 学術企画連携部	48
i) 国際交流室	48
ii) 展示企画室	50
iii) 広報出版室	52
IV 新収和古書一覧	55
V 各教員実績一覧	64
VI 科学研究費補助金実績一覧	83
VII 刊行物一覧	84
VIII 外国人研究員・外来研究員	86
IX 海外出張・研修一覧	88
X 各種委員会委員一覧	96
XI 運営会議委員・幹部職員一覧	131
XII 大学院教育	133
XIII 管理運営(総務・財務)	139
付 賛助会	144



賛助会

【概 要】

国文学研究資料館では、平成 19 年度から、当館が行う日本文学研究の推進、若手研究者への奨励、国際交流及び社会連携等の諸活動に幅広く支援を得るために賛助会を設置し、平成 22 年 3 月までの会員数は、特別会員名、賛助会員（個人）名、賛助会員（団体）名である。

【会員募集要項】

1 募集対象

当館の事業趣旨に賛同する個人・団体を対象。

2 会員期間

入会日から入会日の属する年度の年度末まで

3 寄付金

特別会員 一口 10 万円

賛助会員（個人） 一口 3 千円

賛助会員（団体） 一口 1 万円

4 入会申込みと寄付金払込みの方法

入会に当たっては、「会員募集のご案内」に添付の申込書を郵送してもらう。

別途、当館から入金に関する案内を返送する。

5 入会した際の優待

（1） 当館が開催する講演会、展示、シンポジウム、研究集会等の催し案内を送付する。

（2） 当館が刊行する広報誌（概要・ニュース）を送付する。

（3） 特別会員、10 口以上の賛助会員（個人）及び 3 口以上の賛助会員（団体）は、希望により館内に名前（社名等）を掲示する。

（4） 特別会員及び 10 口以上の賛助会員（団体）は、希望により当館のホームページに社名等を掲載する。

（5） その他当館が主催する催しについて各種優待をする。

【日本古典文学学術賞】

当館賛助会では、日本古典文学会賞を継承し、若手日本古典文学等研究者の奨励、援助を目的として、日本古典文学学術賞を制定している。

本学術賞の対象者は 40 歳未満の若手研究者であり、1 回の授賞は 3 名以内までとしている。対象とする業績は前年の 1 月から 12 月までに公表された、日本古典文学に関する論文又は著書としている。

選考方法は、当館賛助会に設置している選考委員会委員からの推薦及び過去の受賞者からの推薦による対象者の論文を選考委員会で審議することとしており、受賞者には賞状と賞金 20 万円を授与している。

第2回日本古典文学学術賞（対象年：平成20年） 受賞者

岡崎真紀子氏（静岡大学人文学部准教授）

研究業績：『やまとことば表現論—源俊頼へ』 笠間書院 2008年12月

恋田 知子氏（国際仏教学大学院大学学術フロンティア研究員）

研究業績：『仏と女の室町—物語草子論』 笠間書院 2008年2月

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国文学研究資料館

〒190-0014 東京都立川市緑町10-3
TEL:050-5533-2900 FAX:042-526-8604

URL:<http://www.nijl.ac.jp>

National Institute of Japanese Literature(NIJL)

National Institutes for the Humanities

Address : 10-3 Midori-cho, Tachikawa city, Tokyo 190-0014, Japan

Telephone : +81-50-5533-2900 Facsimile : +81-42-526-8604